第一章 誘いは突然に

在りし日の残影に映るおのれと
人、自然、町並みの姿に懐古する心が
この地に生きる誇りを力強くさせる。

ぶらり安土紀行

12月上旬の穏やかな日。ある家のそばで遊ぶ兄妹。

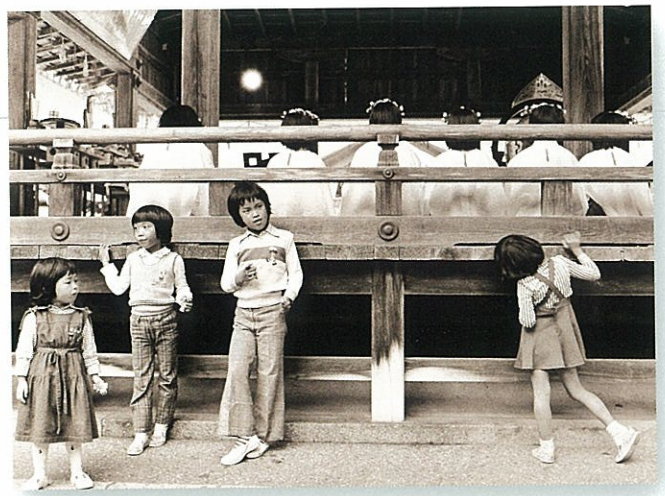
沙沙貴神社は子ども達の憩いの場所でもある。

AZUCHI 安土紀行 IKOU

こちらに収められた写真は、
生活の場としての安土、
よそ行きの顔をしていない普段のままの
安土が撮影されたものです。
ファインダー越しに映る昭和の面影に
あなたが写っているかもしれません。
在りし日の国道、老蘇森、学舎…
昔日の面影に想いを巡らせてください。

年に1回、大きな醤油樽の掃除をするらしい。店に入ると常に鼻をくすぐる独特の匂いがするが、決していやなものではない。

下豊浦地先の入江。木製の和舟が浮かんでいる。



沙沙貴神社秋祭。きくところによれば、巫女（みこ）さんとやらは、氏子の娘で小学校4年生の4月以降生まれた者で、早く生まれた者にその優先権があって、各町より1名ずつ選ばれるらしい。この拝殿で舞えるようになるには、行儀作法の基礎勉強から始めてかなりの練習をするらしい。

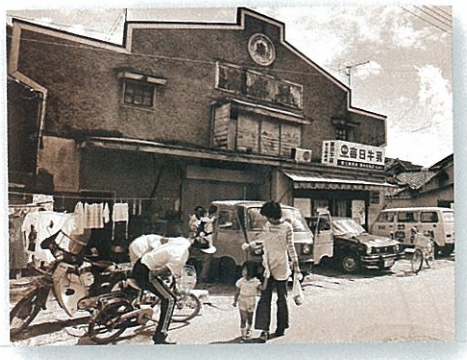
沙沙貴神社には座元（ざもと）という珍しい行事がある。その座元とは、昔、天文時代より受け継がれてきたもので、4月・5月、そして10月と年3回あり、どうも氏子だけによる祭りのことらしい。全部で12座あり、表座、裏座、若宮座に分類されるが、この写真の座は円行座といって若宮座に属するらしい。招かれる方はいいが、準備をする方は大変だ。やっと準備を終えて、お客さんはまだかなあといったところ。

安土小学校運動会。
りりしい？　ふんどし姿。

最近の獅子舞も昔に比べれば驚く程人気がなくなった。しかし、あの笛の音だけは昔も今も変わらないし、また、変わってほしくない。

店の構え、店内の陳列具合も昔とほとんど変わっていない。かえってその方が我々住民にとっては出入りがしやすいというのも、やはりお互い何もかもが馴じみ深いからだろう。

運動会を見つめる少女。



昔、安土にも映画館があった。そう“共楽座”である。

常楽寺踏切手前でのスナップ。5人の女の子、ここで何をして遊んでいたのか知らないが、そろってニコニコしている。

安土町商工会。当時は安土小学校前にあった。

AZUCHI
安土
紀行
KIKOU

昔はここは船着場であった。そして埋め立ての後、現在の遊園地となってしまった。そんな処に田舟が起こしてある。昔の姿を知っている人には、何となく滑稽に見えるに違いない。

畑仕事の風景は今も昔も変わらない。

奥石神社。再建される前は、藁葺きの拝殿だった。
社務所は当時も今と同じ場所にあった。

昭和18年ごろ。祭り行列の背後に見えるのは中山道の松並木。

今も昔も変わらない日本の強い女性を思わせる。

街かどには、おばあちゃんと幼児のほほえましい風景も見られる。

水泳前の検診。校医の「杉原玄孝」先生。

老蘇小学校。ツベルクリン注射、なつかしい保健師の近藤先生。

消防車を利用した老蘇小学校のプール清掃。安土小の皆さんも泳ぎに行った思い出のプールである。

AZUCHI 安土紀行 KIKOU

国道8号。老蘇森は分断されたが、新幹線はまだ走っていない。